

## 平成29年度 奈良市の地域教育を考える懇話会の意見の概要

開催日時	平成 30年 3月1日(月) 10時00分から11時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第21会議室
意見等を求める内容等	第7回「交流の集い」について 奈良市コーディネーター研修の報告について
参加者	出席者 7人 ・ 事務局 7人
開催形態	公開 (傍聴人 2人)
担当課	学校教育部 地域教育課

### 意見の概要

事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

《意見の概要》

#### 第7回「交流の集い」について

- ▶熟議のテーマが「これからの10年」という大きなくくりで少し戸惑いはあったが、参加者からは、「学びになった、他校区の様子が知れてよかった」など概ね良かったという声が多かった。
- ▶子ども体験プログラムの各ブースでは、子どもたちが熱心に取り組んでいた。また、その周りでは他校区の人たちが内容をしっかりと見ていたので良かったと思う。
- ▶来年度も「子どもの学びを軸とした交流の集いをやっぺいこう」という声が、先日の反省会であがった。
- ▶一般教職員の参加が少なかったのが残念。現場で教壇に立っている先生方に、地域の取組を理解してもらうことで、コーディネーターの働く場が増える。
- ▶実際のプログラムを見たり、体験したり、ということはこれまでなかったので、面白い企画だったと思う。
- ▶ポスターのテーマ「これまでの10年、これからの10年」を、どうやって書いていいのかがわからなかったが、協議会での話し合いのなかで、地域の人と一緒に何かを体験した子どもたちが成長し、いずれ親の立場になったときに地域のことを思えるような取組を継続していくことが、これからの10年なのではないかと感じた。
- ▶卒業した生徒を地域につなぎとめていく活動(二十歳のお祝いを毎年開催している中学校など)は地域の底力になっていく。教育は長いスパンで考えていかなければならないので、そういう視点も必要だ。
- ▶今の子どもたちは、遊ぶとなったら車にのって遠くへいく、というような大がかりなことが多い。そうではなく、日常にある季節の行事(餅つき)など、なんでもないことを体験することが大事である。
- ▶10年前15歳で卒業したの子どもは現在25歳になっている。奈良市で、地域で生まれた子どもたちが、子育ては奈良でしょう、とリターンしてくれる子どもたちが増えることが望ましい。

▶公民館も若者たちに突然来てといっても無理で、子どもたちに公民館が身近であるようにと種をまいているところ。

### 奈良市コーディネーター研修の報告について

▶奈良市のコーディネーター研修は他の市町村に比べて充実している。

▶今後、学校は若い世代の先生が中核メンバーになっていく。

教育課程やコミュニティ・スクールの研修については、学校としても整理できるので助かる。

▶公民館の職員も対象にぜひとも加えていただきたい。地域の皆さんが聞いているお話を一緒に聞かせていただくと、同じ土台ができる。そのなかで役割分担なのか、連携なのかということが進みやすくなる。今後の事業の推進にも役立つのでは。

▶コーディネーターの皆さんは言葉も意見も持っているし、学ぶ力もついている。さらに、拡張学習（他業種の方を混ぜる）を組み込むことで、刺激を受けて活動が広まり、お互いのためになる。

▶教員の初任者研修（教育支援課主催）にコーディネーターが参加させてもらえれば直に話ができるのでは。新任の先生が困ったことを地域に口に出せる研修になれば、地域と関わっていく機会が増えるかなと思う。